

# 「コンサルタント」の目

## 路面電車を走らせて中心市街地の活性化を図ったデンバー市の話

デンバー市はアメリカ西部にあるコロラド州の州都で、ロッキー山脈の東麓に位置し、緯度では秋田市や盛岡市とほぼ同じで、高山市と姉妹都市関係にある。標高は一六〇〇mと高地にあるため「マイル・ハイ・シティ」の愛称があり、近くのボルダー市は高地トレールニング地として日本でも良く知られている。

デンバー市は都市としての歴史は一三〇年ほどと浅く、人口も約五〇万人と日本での中核都市相当の人口規模である。デンバー市の市街は碁盤の目状に道路がつくられており、札幌市や帯広市と類した広さだ。

街の中心は、一五番、一六番、一七番の各ストリートで、北端に野球スタジアムや公園、南端に市や州の庁舎やビジネス街が集まっており、この周辺約二kmが中心街を形成している。特に一六番ストリートに沿って、ティーバーセン

ターなどの大型ショッピング施設やホテル、駐車ビルが多数並んでいる。

デンバー市は、「現在、賑わいのある街、環境改善で成功を収めた都市」として、一九九九年には「ニューヨーク・タイムズ」に「ダウンタウン・ルネッサンス」と評されるなど、多くの評価を受けている。デンバー市都市開発担当者取材し、市の活性化に結びつけた要因についてまとめることとする。

◇ ◇ ◇

一九六〇年代にアメリカ各地の都市で、ダウンタウンの環境悪化がすすんだため、人口の郊外移動が進み、いわゆるドーナツ化現象が起き、デンバー市も例外ではなかった。

一九七一年のデンバー交通局とRTDによる都市交通の改善提案を受け、一九七七年には世界的に有名なIMペイ建築会社による都市再生計画がつけられている。その

主な内容は次のようなものである。

ア・一六番ストリートの両端にバスターミナルを新設する

当時、走っていた五五〇台のバスの中心街への乗り入れを制限し、二つのバスターミナルに集中させる。これにより排気ガスの低減を実現させる。

イ・一六番ストリートの中央に専用バスレーンを設ける

中央に幅八mの専用バスレーンにモール・ライドを運行させ、環境改善をめざす。

ウ・一六番ストリートに植栽をし、ミニ公園化、モルル化をすすめる

エ・一六番街区の再開発をすすめる  
幅二十四mのストリートの両側商店街やショッピングセンターを再開発し、集客能力の向上をめざす。

◇ ◇ ◇  
市街地再生の骨子は次のとおりである。

ア・RTDライトレール（電車）

デンバー中心街では路面を走り、郊外地では専用軌道となっている電車。一六番ストリートの北端から中心街の西側を迂回し、一六番ストリートの中央部で一六番ストリートと直交して南部と南西部の住宅街と専用軌道で結んでいる。

一九九四年、南部へ五・三マイル十四駅で営業開始し、予測利用者数が一四六〇〇人のところ実際は二六二〇〇人と多かった。

二〇〇〇年、南西部へ八・七マイル五駅で営業開始し、予測利用者数が八四〇〇人のところ実際は二二三〇〇人と多かった。

現在では市民の足に定着し、将来はデンバー国際空港まで延長される予定で、空港利用者も直接RTDライトレールで市内入りするに違いない。また、郊外の駅はハイウエーと同じ高さに設けられており、市民のマイ



RTD ライトレール  
16番ストリートと直交して交差点で駅とモール・ライ  
ト停留所と直結している

カーは駅の駐車場を利用して、マイカーでの市内入りは極めて少なくなっている。

## イ・モール・ライド（無料シャトルバス）

一九八五年モール・ライドの導入時は二三台のシャトルバスで一五〇〇〇人の利用があったが、現在は一二五台、六三五〇〇人に利用されている。

モール・ライド導入時に五五〇台のバスが除かれたため、これだけで車ラッシュが解消されている。

一六番ストリートを七五秒間隔で運行されている。車両前部に充電するゼネレーターがあり、後部に天然ガスの駆動部を

つけているので、クラシックシャフトがなく、床は低くフラットになっている。

一九八五年に導入された当初の動力源は電気六、ディーゼル四の割合であったが、二〇〇二年からディーゼルに代わり天然ガスを用いたハイブリッド車になっている。

◇ デンバー市の都市再生事業の効果は次のようにまとめることができる。

ア・交通渋滞が緩和され、排気ガスによる環境の悪化が防止できた  
RTDバスは一六番ストリートの両端にあるバスセンターに集められた結果、交通渋滞が緩和され排気ガスが減少している。

イ・住環境がよくなり郊外から人口が流入しはじめる

大気汚染の緩和は一六番街周辺にまで拡がり、古いオフィスビルや商業施設がリニューアルされて新しいビジネス地区が出現したことや、アパートなどに住む人も増え、中心市街地の再生がすすめられている。

ウ・来街者が増加した  
ビジネス客、観光客、地元市

民の買物客がダウンタウンを巡回するのに便利な交通手段としてモール・ライドが利用され、一六番ストリートへの来街者が増加した。

エ・デンバー市のイメージがアップした

連邦政府からダウンタウンのルネッサンスのはしりと評価され、全米で一番空気のきれいな都市とイメージがアップした。

しかし、一六番ストリートをさむ一五番、一七番以外と離れるに従い、まだ都市再生効果は波及しておらず、今後の課題も残している。環境志向の街づくりは一応の成功を収めてはいるが、一六番ストリートを少し離れた地域の再生は別のテーマの検討も必要なのかと思われる。

◇ 日本でもデンバー方式が参考になる点が多い。

ア・ライトレールの導入、活用

日本ではライトレールの技術は確立されている。最近では富山市で富山ライトレールが新設されたが、元来各地域で運行されていた経緯がある。

◇ デンバー市とは異なるところ

は、日本では城下町や商人町があり鉄道の駅と離れている都市がかなりあること、さらに歴史も長いことから観光客のニーズも加味して都市再生を検討すべきことであろう。どんな街づくりをめざすのか、地域でしっかりした合意を形成しておくことが必要となる。

イ・ライトレールはバスターミナルと駐車場の連絡を重視する

バスやマイカーの交通渋滞を防ぎ排気ガスから環境を守るにはライトレールを利用してもらわなければならない。このために既存の鉄道駅と中心街やビジネスセンターとは別の箇所にはバスターミナルや駐車場を整備することが重要となる。

ウ・日本では函館市や熊本市、広島市など路面電車が残っている

富山港線のオーブも注目されている。宇都宮市では計画づくりがすすみ、東京日本橋や池袋でも話題にのぼっている。

県内でも西部では五〇万都市があり、エコロジーに対応する都市づくりに検討を加える価値はあるのではないかと感じられる。

（中小企業診断士 大橋唯男）